平成三十年七月二十九日　希望の光（みち）勉強会

神　示

「教え」を通し　社会の姿（現実）を見詰めて生きる

「真理」に生きるほど　人々の身勝手が見えてくる

ゆえに　心のまれず　対応するゆとりが持てる

「道」を外さず　欠かさず　「生きる」人（信者）の姿（人生）が　ここにある

信者に申す

神見るに　皆は　「教え」を心（人生）の支えに　「生きる」思い（決意）が弱い

学びも薄く　世（社会）の知識に心のまれて生きている

「心」不安に迷い　人々の思いに振り回され

傷つけ合って生きている

――「道」欠く人生に　「開運」はかなわない――

この一言（いちごん）「真理」を受け止めて　「真理」に生きる信者を目指せよ

「教え」を学び　祈願重ねて　「実体」に生かす努力をする

この思いが深まるほど　心の動きは安定し

今ある悩みは解決してゆく